

本日の卒業式を迎えられた皆さん、誠におめでとうございます。

「観光は平和へのパスポート」という国連決議にも示されているように、観光は人々の平和な暮らしを前提として成り立つ、たいへん楽しみに期待に満ちた行為です。観光と災害や戦争とは両立しません。

しかし、皆さんが本学の学生であった間には、実に多くの困難かつ不幸な問題が発生しました。まず世界中を襲ったコロナ禍がありました。皆さんは、もつともコロナ禍の直撃を受けた学年とっていいでしょう。昨年の二月のトルコ・シリア地震、今年元旦の能登半島地震などでも多くの人命が失われ、今も復興作業が賢明に続けられています。

さらに、二年前に勃発したロシアによるウクライナへの侵攻、昨年の夏にパレスチナ・ガザ地区で起きたイスラエルとハマスの戦争等においては、すでに何億人もの人々が亡くなり、いまだに出口が見えません。今日、こうしている瞬間にも、幼い命を初めとして罪もない人々の命が次々と失われています。

こうした災害や戦争によって命を落とした何億・何十億という人たちにも、家族があり、友人や恋人たちとの楽しい生活があったはずです。彼ら・彼女らも、平和な日常を共に楽しみつつ、時々世界各地

を旅し、新たな出会いの中で様々な経験・交流をしたかったに違いありません。人生が暴力的に突然中断され、愛する人たちと永遠の別れを余儀なくされたこれらの人々の思いは、想像を絶するものです。何と悔しく無念であったことでしょうか。

さて、本学が大阪観光大学として新たに生まれ変わった二〇〇六年、日本では「千の風になって」という歌がヒットしました。これは、アメリカで公開されていた「Do not stand at my grave and weep」という詩に新井満さんが作曲されたもので、自ら日本語訳もされ歌手として演奏もされています。しかし、その年に秋川雅史さんという歌手が歌って大ヒットすることになりました。歌詞を一部紹介しましょう。

私のお墓の前で 泣かないでください

そこに私はいません 眠ってなんかいません 千の風に

千の風になって あの大きな空を 吹きわたっています

この詩を読み、この歌を聞くと、私には災害や戦争によって人生の半ばで命を落とされた人たちの気持ちもこのようなものであるように思えてなりません。すなわち、お墓の中で眠ってなんかいません、大きな空で千の風（無数の風）になって、地上で生きている愛する人々を見守っているのだと。

私の専門は経済学で音楽の専門教育は受けていません。しかし、皆

さんのご卒業にあたって、こうした困難を乗り越えて今日という日を
迎えられた皆さんへの心からのメッセージとして、全くの自己流では
ありますが、この「千の風になって」という歌をお届けしたいと思っ
ます。

皆さんは本学で観光学を学びました。これから本学を巣立ち旅立つ
にあたり、世界中にそうした不幸に突然襲われた人々がたくさんいる
ことを決して忘れることなく、世界中の平和を願う人々と手を携え
て、千の風になった人たちの分まで楽しく幸せな人生を送っていつて
下さい。

二〇二四年三月一八日

大阪観光大学学長 山田良治